



コント『ルパン』



『ルパン5世』

IKKAN



目次

<登場人物>	1
<本文>	1

<登場人物>

コント『ルパン5世』

作・I K K A N

【登場人物】

○俺 ●女友達 △ルパン5世

<本文>

(ファミレス。二人が席に通される。店員さんがお水を置く。椅子は2つ。)

△「ごゆっくりどうぞ〜。」(お辞儀をして出て行く)

○「あ、どうも〜。」(自然な感じで)

●「実は俺さあ、すごいヤツと知り合ったんだよね！ だから、紹介させてくれない？」

○「へえ、すごいヤツって？ どんな人？」

●「は！？すごいヤツって言ったら1人しかいねえじゃん！！」

○「そんな事ないでしょ！ だから誰なのよ！ だったら紹介してみなさいよ！」

●「(聞いて驚くなよ) へっへーん、ちょっと待ってろよ。」

(あたりをキョロキョロする●)

●「あれ？」

○「ん？」

●「あれ？ あれ？」(居ないぞ、みたいな空気になっている)

○「ん？」(つられてキョロキョロする。)

●「(店員に) あ、すいませ〜ん！」

△「はい！ ご注文おきまりでしょうかあ。(注文のハンディでの注文機械を持って席に来る。)」

●「あ、どうぞどうぞ。」(●は席を立ち、自分の席に座ってと促す)
△「あ、はい。すみません。」(と、促されて座る)
○「ちょっ！なんで座らせちゃうのよ?!」
●「あ、紹介したいって言ってたの、コイツね。」
△「あ、どうも初めまして。」
○「いやいやいや！店員さんじゃない、この人！」
●「馬鹿！何いってんだよ！そんなの店員に決まってるだろ！」
○「どういうことよ！」
●「バカ、こいつの爺ちゃん、すげえんだよ。」
○「え、そうなの？」
●「もうね、超犯罪者。」
○「え、捕まった人？」
●「もう捕まったとか、捕まってないとかそういう『次元』じゃないから！」
○「ふうん。」
●「(すぐに) やべ、今ヒント言っちゃった。」
○「？」
●「わあ！やべえ！分かっちゃったかな。分かっちゃった？」
○「え？いや、全然。」
●「やべ、もうだめだ！もう降参！」
○「なんで降参してんのよ！こっちでしょ！降参なのは！」
●「ブフーッ!!! (吹き出すほど大きく笑って) いや、お前そんな若くねえだろ。」
○「高校三年生じゃないかんね。『こうさん』って。」
●「ブフーッ！ブフーッ！(受け続ける)」
○「(遮ろうと) てか誰なのよこの人、いい加減教えなさいよ。」
●「あのさ……」
○「うん。」
●「……こいつの爺ちゃん。」
○「うん。」
●「……」
○「……」
●「……ルパン三世。」
○「……………は??」
●「だからあ……！こいつの爺ちゃん……！ルパ～ンさ～んせ～い。」
○「何ちょっと真似してんのよ。」
●「凄くない?!?!?!」
○「いやいやいや。何？ルパンって。」
△「あ、初めまして、五世です。」
○「いやいやいや五世じゃないから。マンガの世界だから、アレは。」
●「馬鹿!!! 今どきのマンガは違うんだよ!!!」
○「今どきとか関係ないから！ルパンとか実在なんてしてないから！」

- 「うっわ！……はあ～あ。大体信じねえんだよな、こういう凡人は。こういう世代が一番信じねえんだよな。」
- 「世代関係ないでしょ。」
- 「(5世に) この世代に言ってやって。」
- 「世代の代表とかじゃないから、こっちは。」
- △「……私の祖父は、ルパン三世です。」
- 「……。」
- 「……どお？ (したりムードで)」
- 「いや、『どう？』じゃなくって！ 証拠ゼロじゃん。」
- 「ああ！ もう！！ だから、本当なんだって！」
- △「あ、いや、本当にそうなんです。祖父はルパン3世なんです。」
- 「はあ？ いや、でもアレ、マンガだからな～。」
- 「いやだからアレは……モンパチさんが、実際にあった話をマンガにしたの。」
- 「音楽みたいになってるから！ モンキーパンチさんでしょ？」
- 「それ！ その人、その人。(5世に) ……だよな？」
- △「あ、はい。実話を元にして書いたものだと仰ってました。」
- 「え～？ いやいやいや～？ (全然信じてない)」
- 「うっわ！ 信じてねーべ！ (5世に) ちょっと写真見せてやってよ。そしたら絶対信じるから。」
- △「あ、はい。(写真を取り出し) ……どうぞ。(写真を見せる)」
- 「あ、はい。(受け取る)」
- △「これが、祖父の三世です。」
- 「ほら！ ……どう？ (キタコレ)」
- 「(見て。全然普通のお爺さん) え～……いやどこにでもいる禿げたお爺さんの写真だな～コレ。」
- 「え！？ そう！？ (嘘でしょ?!)」
- 「ごめん、これじゃちょっとわかんないかなあ……。」
- 「よく見ろって、もみあげとか。」
- 「え？ (ああ、そうかともう一度見て) ああ、そうか。って、もみあげないじゃない。」
- △「歳を取ってだいで禿げてしまいました。」
- 「じゃあこの写真意味ないじゃない！ 何の手がかりもないし！」
- 「だってお前、ルパンの実際の写真とか見た事ねえだろ。見たら超アガるぜ。」
- 「なによアガるって。こんな写真見せられたって何にもなんないわよ。」
- 「何なんだよ！ いいよ、そんなに信じないんなら帰るよ！」
- 「怒らないでよ。分かったわよ、信じるわよ。」
- 「カエルの子は帰るよ。」
- 「関係ないわよ、カエルの子」。
- 「大体、お前、俺が嘘ついたことあるか？」
- 「まあ、何回かはあるでしょ。」
- 「何回かじゃん。」

- 「何回かついてるじゃん！」
- 「ちょ、俺たち今まで何回話してる？」
- 「何回話してるかわかんないけど。まあ沢山話してるわよ。」
- 「つまり、今まで話したうち、ほとんど本当の話じゃん。」
- 「まあそうだけど。」
- 「今まで俺がついた嘘なんて、軽いヤツしか無いじゃん。」
- 「まあそうかもしれないけど。」
- 「ツチノコが出たとか、ツチノコが逃げたとか、ツチノコと友達になったとか。」
- 「なんで全部ツチノコなのよ。」
- 「とにかく、そんなに嘘はついてないってことじゃん。」
- 「じゃあさ、もし（5世を示しながら）この人がホントだとしたら、」
- 「おお！（ようやく食いついて嬉しい！）」
- 「（5世に質問）え？ 会った事あるの？ あ、ていうかさ、ルパン三世って誰と結婚したの？ え？ やっぱ不二子ちゃん？？」
- 「キタ。ゆってやって（5世に）」
- △「あ、うちの祖父は、『クラリス』って言う……」
- 「え？ クラリス？！」
- △「床屋の娘の、民江お婆ちゃんと結婚しました。」
- 「誰よそれ！？」
- △「え？ あ、民江は、ウチの祖母です。」
- 「だから誰なのよ！？」
- 「祖母わかんねえのかよ！（ベタツッコミ）」
- 「いやいやいや、祖母は分かるから。今ボケたワケじゃないから。」
- 「ボケてるよ。お婆ちゃんはボケるだろ。」
- 「そっちの話し、してないから！。てか何で『クラリス』って名前の床屋なのよ。ややこしい。」
- 「いやいや『クラリス』なんて名前、何もややこしくないよ。」
- 「いやだから違うわよ、クラリスって言ったら、カリオストロじゃん。」
- 「え、何それ？ ん？」
- 「嘘でしょ？ カリオストロ知らないの？」
- 「え？」

- 「ルパン映画の名作じゃない！ カ！ リ！ オ！ ス！ ト！ ロ！（立て気味に）」
- 「は？ か・り・お・す・と・ろ・の・し・ろ??」
- 「知ってんじゃん！ 何で知らないそぶりしてんのよ。」
- 「はあ！？ 知ってるよ、とっつあんの有名なセリフがあんじゃん！！」
- 「ああ、そうそう。」
- 「『あなたの、子供です。』」
- 「違うわよ！！ そんなセリフないから！！」

- 『責任、とってください。』
- 「違うわよ。何でとっつあんハラんじゃうみたいになってんのよ。……あ、じゃああれはどうなの？ 不二子ちゃんは存在してんの？」
- △「ああ、不二子お婆ちゃんの事ですか。」
- 「あ、やっぱ存在してるの？」
- △「あ、はい。もちろん。小さい頃は、とてもお世話になりました。」
- 「あ、付き合いはあるんだ。」
- △「いやー、凄いですよ。」
- 「へー、やっぱ金持ちになってたりするの？」
- △「はい、そうですね。一発当てたんで。」
- 「え？ マジで？！ やっぱ不二子ちゃんてあなどれないよね。今何してるの。」
- △「大分前に亡くなりました。」
- 「あ。そうなんだ。え、何一発当てたんですか？」
- △「マンガを書きまして。」
- 「あ、そうなんだ。」
- △『『ドラえもん（発音おかしい）』という・・・』
- 「フジコ違いじゃない！」
- △「大ヒットした漫画を描きまして。」
- 「それ不二子じゃなくて、藤子でしょ。」
- △『『ドラえもん（発音おかしい）』は世界中の皆様にも愛される作品になったんです。』
- 「つか何その発音。『ドラえもん（普通の発音）』でしょ。」
- △「いや、不二子お婆ちゃんから、『ドラえもん（発音おかしい）』と伺っております。羅生門とか、雷門、みたいな読み方が正しいと言われておりました。世間では、『ドラえもん（普通の発音）』と呼ばれているようだけど、本当は違うんだよと、不二子お婆ちゃんが私にニヤリとしながら言っておりました。」
- 「騙されてんじゃない！ それ！」
- △「五右衛門さんが『ドラえもん（発音おかしい）』のモデルだって言っていました。」
- 「え？ そうなの??」
- 「これ、すげえの！ 五右衛門、六右衛門、七右衛門、と数えていって21エモンになって、最終的にドラえもんになったんだって。」
- 「なにそのプロセス。」
- △「四次元ポケットは次元さんから取ったんだって言ってました。」
- 「まあ、確かに次元って入ってるけど、」
- 「だってほら。一次元、二次元、三次元、四次元。」
- 「数えなくていいから。」
- △「次元さん四人分の凄さ。」
- 「分かんない、分かんない。」
- 「あとほら、『アンキルパン』って道具もあったじゃん！」
- 「アンキ『パン』ね。」
- （憤慨して）なんだよ！ なんなんだよ！ そんな信じてくれないなんて思わなかつ

たよ。」

○「いや仕方ないじゃない。」

●「お前が、すげールパン好きって言ってたからさ〜。」

○「そりゃ、好きだけどさ〜。」

●「三度の飯より、金が好きって言ってたからさ〜。」

○「ルパン関係なくなっちゃってんじゃない。」

●「もういいよ！ 帰ろうぜ。」

○「ちょっと待ってよ。分かったわよ、信じるわよ。」

●「本当にい？」

○「うん。」

●「本当の本当にい？」

○「本当だって。」

●「嘘じゃねえだろうな！」

○「本当だから、もう。」

△「嘘つきは、泥棒の始まりですからね。」

○「あんたに言われたくないわよ。」

End

コント『ルパン5世』

版番号の予定

{{-
-}}

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
